

水沢の森に里山をよみがえらせよう
「水沢^{もりんど}森人の会」



水沢森人の会(以降「森人の会」と略します。会員は113名・2017年3月31日現在)は、2001(H13)年に創立、宮前区市民健康の森(菅生緑地西地区)を管理する市民パートナーシップ団体として緑地保全のボランティア活動を行っています。

3月19日(日)定例作業日、森人の会の活動を見学しました。9時から朝の会があり、代表の本郷一雄さんから、各区の健康の森の中でも、特に大勢の方が作業して下さる森人の会の会員のみなさんへ、ねぎらいのことばがありました。担当者から作業手順の話があり、準備体操後、各グループに分かれて、水路整備や竹林の手入れ等を行いました。



▲しいたけ菌の接種



▲代表の本郷一雄さん

水沢の森の湧口(わくくつ)を紹介くださった本郷さんは、「ぜひ棚田をつくり赤米を収穫したい」と話されていました。春分の前日でもあるため、作業後には、メンバーよりお手製ぼたもちの差し入れがありました。(わくくつ:湧き水の出る場所)

森人の会の主な活動

定例活動を毎月第3日曜の午前中に行っています。夏季は草刈りを頻繁に行っています。作業には毎回30名程の会員が参加しています。(住所、年齢に関係なく誰でも参加可能)多様な里山環境を守るための年間を通じた作業は、

- ①雑木林では笹刈と、調査の上育成する木以外の伐採、新しく整備された更地への実生の植樹
- ②竹林では定期的に関伐し竹垣、竹細工、竹チップの遊歩道への散布や竹炭焼きに利用
- ③ビオトープ池の管理とブルーギル等の特定外来生物の駆除
- ④野草保護区域を設け在来種の保全と種の散布が終わった時期での草刈
- ⑤畑の農作業(毎週3日、作業班10~15名働いている)等です。

森人の会では、区内の学校、支援施設との連携を深め、野外活動や体験学習を行ってきました。10年前から区内の小学校2校が環境を学ぶ5年生全員の学習に訪れています。また、緑地が学区内に位置す



▲小学生の環境学習

る稗原小学校では、児童・教員・保護者が農作業に参加し、植え付けから収穫までの畑の仕事を体験する場として活用しています。緑地の管理作業には複数の支援施設利用者が参加しています。竹林整備のためのタケノコ掘や栗拾い、柿もぎ等では市民参加イベントとして近隣の自治会や子ども文化センター等に開放しています。他にも、バードウォッチング、夜の自然観察会、一般区民を対象としたガイドツアー等も定例行事となっています。広々とした草原は稀少な存在で、バッタやトンボを取る子どもたちに好評で、秋には美しいススキ原となり、人気スポットとなっています。



▲水沢の森 花ごよみ

森人の会初代代表の水野憲一さんたちが中心となり「水沢の森・花ごよみ(里山づくりの記録)」「水沢の森・花ごよみ2」を発行しています。冊子には、たくさんの写真が掲載されていて、四季の花々、水沢の森で見ることのできる主な植物の花ごよみや植物の分類順一覧表等も掲載されています。

「里山って何?」と聞かれても様々なイメージがあるため、森人の会のみなさんは、発会当初から勉強会を続け、里山について学んできました。この冊子には、里山づくりの貴重な記録が掲載されています。

その一文を紹介すると、「里山は日本の農耕社会と、日本人の生活と密接な関係があります。そこで里山を『森』だけでなく水田等の農耕地、水系を含む環境総体という捉え方をすることが多くなっています。環境省等では、『里地』という言い方もしています。言い換えれば、里山は日本の農村社会の環境そのものであり、日本のふるさととも言っているのです。」とあります。

50年後の水沢の森 イメージ



都市住民にとっての「里山」とはどのようなものが望ましいかを考え「水沢の森に里山をよみがえらせよう」をテーマに、森人の会のみなさんは、日々活動を続けています。

■ 問合せ 水沢^{もりんど}森人の会
Tel/Fax 044-854-6406